

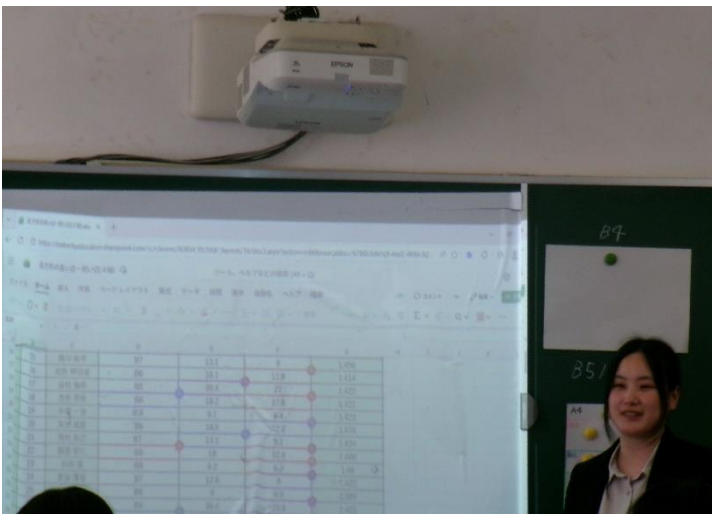
学校探訪レポート

～先生はみんなのパーソナルトレーナー！一人一人に寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたち一人一人の学びのプロセスに伴走し、その知的好奇心を最大限に引き出す「パーソナルトレーナー」としての先生方の姿を追う本レポート。今回は、3年4組で行われた兼田瑞穂先生の数学科の授業（単元名：「平方根の利用」）を参観しました。身近な教材である「コピー用紙」を入りに、Excelの共有機能を活用して数学的な法則を導き出す、生徒たちの「気づき」を大切にされた授業の様子をお届けします！

◆ 「集合知」が導く発見の喜び。データ分析で平方根を体感する



兼田先生の授業の魅力は、生徒たちが数学の恩恵を肌で感じられる「生活との接続」にあります。普段何気なく手に取っているコピー用紙を教材に、「なぜこのサイズなのか？」という問いを投げかけました。平方根という、一見すると抽象的で日常生活から遠い存在に思える数が、実は私たちの身の回りの規格に深く関わっている。この発見を促すアプローチが見事でした。特に圧巻だったのは、Excelの共有機能を活用した「データの集合知」の活用で

す。生徒たちは自身の端末を使い、測定値をクラウド上のシートへリアルタイムに入力。刻々と変化し、集約されていくクラス全員のデータを見る中で、個々の数値の背景にある「比率の法則（約1.41）」を、生徒自身の手で帰納的に見つけ出していきました。「一人では気づけなかった数理の必然性に、クラス全員の力で到達する」。この探究的なプロセスこそが、本時の最大の醍醐味であり、数学を単なる暗記科目から「世界を解き明かすツール」へと変貌させていました。

◆ 生徒の気づきを肯定し、学びを深める「伴走型」の指導

活動中、兼田先生は生徒たちの端末の画面を常にモニターしながら、絶妙な距離感で個別支援を行われていました。発見した生徒をその場で称賛し、データ処理や考察に戸惑う生徒へは優しく支援することで、思考を止めずに次なるステップへといざなう姿が非常に印象的でした。

生徒の「わかった！」という瞬間を何よりも大切に、個々の発見に深く共鳴する先生の伴走スタイルは、まさに学びのパーソナルトレーナーそのものです。

◆ おわりに

データを通じた協働学習という新しい数学の学びを創り出し、生徒一人一人の知的好奇心を大きく耕してくださる日々の授業づくりに、心から感謝いたします。教室に響く議論の声は、数学を愛する心が確実に育まれている証です。いつも本当にありがとうございます！